

(一般情報)

コロナに負けず、上質な豚肉を！

～コロナ禍の中、対策を講じながら枝肉互評会を開催～

千葉農業事務所改良普及課 令和2年9月30日発

市原養豚研究会（農家7戸で構成）は、7月16日に千葉市、市原市、八千代市の3市合同による第31回枝肉互評会を開催したところ、7戸（会員6戸と非会員1戸）から26頭の出品がありました。今年は新型コロナウイルス感染症の影響から大きなイベントが中止になる中、「枝肉互評会は、1年間の自分たちの飼養技術改善の成果を確認し、次の1年につなげる場だ。」という会員の熱い思いから、感染予防対策を講じた上で、関係機関の協力を得て開催を実現させました。そして、8月21日の審査講評会において、ペア（同腹豚）[※]の部1席に選出された生産者には、千葉県知事賞が授与されました。審査員長から枝肉所見等について説明を受け、会員らは、熱心に上質な枝肉の特徴などを質問し、来年度に向けてより良い豚肉にしようという意欲を見せていました。

農業事務所では、今後も豚肉の品質改善及び飼養管理技術の向上を支援していきます。

※ペアとは、審査する雄・雌各1頭の1組のこと。同腹豚とは、同じ分娩で産まれた豚同士のこと。



千葉県知事賞受賞の枝肉
(左：雄 右：雌)



審査講評会の様子